

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：22301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520083

研究課題名(和文) 聖遺物の複製化・商品化をめぐるマテリアル・イスラームの研究

研究課題名(英文) Material Islam: The Cult of Relics and Religious Commodities in South Asian Muslim Societies.

研究代表者

小牧 幸代 (Dr. KOMAKI, Sachiyo)

高崎経済大学・地域政策学部・教授

研究者番号：20303901

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：南アジアのムスリム多住地域で観察されるイスラームの聖遺物の複製化・商品化現象は、前近代的で呪術的な信仰の残滓ではなく、9.11以降のインド・パキスタンでよりいっそう激しくなった異なる宗教運動間の対立状況と、近隣諸国・欧米諸国などとの政治経済外交関係の変化という文脈において捉え直すべきものである。したがって、「マテリアル・イスラーム」の傾向は、イスラームの「原理主義」的傾向に対抗して顕在化すると考えられるのである。

研究成果の概要(英文)：The reproduction and commodification of relics observed in predominantly Muslim regions in South Asia is not a vestige of premodern, magical beliefs. It should be perceived in the context of the intensified antagonism between religious movements in India and Pakistan since 9/11, and the transitions in political and economic relations with neighbouring countries and the West. Accordingly, the trend of material Islam can be seen as emerging in opposition to Islam's fundamentalist trend.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：イスラーム 南アジア 聖遺物 預言者 聖者 商品 複製 宗教グッズ

## 1. 研究開始当初の背景

イスラームは、他の宗教に比べて「聖なるもの」の具象化や儀礼的な「モノ」への関心が低いといわれる。唯一神アッラーを造形化して礼拝方向に置くことは決してないし、その礼拝にしても特定の作法に則って浄められた身体と、身体を規定の部位まで覆い隠す清浄な衣類さえあれば実践可能である。

特別な衣類や道具類を必要としないのは一般信徒だけではない。礼拝指導者や伝統諸学者などの「聖職者」も同様である。両者を隔てるのは儀礼的な衣類や道具類の有無ではなく、イスラーム的知識の多寡である。「モノ」は、そこでは世俗的地位の誇示や帰属意識の表明において利用されるにすぎず、神の前ではなんら高い価値をもちえない。

こうして国内・海外の研究者の学術的関心も、神学や法学、思想、文学、政治経済およびそれらの歴史などに集中し、「イスラーム的なモノ」としては宮廷文化との関わりが深い、いわゆる「高級芸術」としての美術工芸品や建築物などが取り上げられる一方で、「聖遺物」や多種多様な「イスラーム・グッズ」は「民衆イスラーム」、もしくは「非イスラーム的」ではないにせよ研究対象に相応しくない「低級で安っぽいモノ」として軽視される傾向にあった。

宗教研究一般における物質文化軽視の傾向は、近代キリスト教における精神性と物質性の対立およびその序列化、聖俗二元論と直接関係がある。「真の宗教は物質主義的ではありえない」というのが近代西洋の宗教者や一般信徒、知識人、研究者の間での共通認識となってきたからである。

しかしながら、南アジアのムスリム多住地域では、預言者をはじめとした「聖なる人々」に由来するとされる「聖遺物」が民衆レベルから政治的なレベルに至るまでの広がりをもって熱狂的な信仰の対象となっている。

また、聖遺物の「三次元的複製品(レプリ

カ)」や「二次元的複製品(デザイン画、写真、携帯電話やPCのデジタル画像)」が信仰対象となっているだけでなく、聖遺物をモチーフとしたカラフルでコンパクトな「護符・御守」も、ポスターやステッカー、壁飾り、ラミネート加工されたプロマイドのかたちで流通し、聖地土産や記念品として購入されている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、南アジアのムスリム多住地域で観察される「イスラームの聖遺物」の「複製化」「商品化」現象が、どのような文化社会的・政治経済的背景をもつものであり、またイスラームという枠組みのなかでどのように位置づけられうるものであるのかを、「イスラームの物質的次元」に注目することの重要性を含意した、「マテリアル・イスラーム」という新しい研究視角を採用することによって明らかにすることにある。

## 3. 研究の方法

本研究では、インド、パキスタン、バングラデシュにおける聖遺物信仰の現場を調査すると同時に、聖遺物グッズの製造・流通・消費のプロセスに関する調査も実施する。そして、他のイスラーム地域や他の諸宗教における聖遺物信仰と聖遺物グッズの現状を、文献研究や現地調査を通じて比較検討する。

この作業を通じて、聖遺物信仰と聖遺物グッズの氾濫状況が南アジア固有のローカルな現象であるのか、それとも世界的な「イスラーム復興」現象と何らかの関係をもつものなのか、あるいは世界的な「消費社会化」現象と密接な関係にあるものなのかを探ることで、南アジアにおける「イスラームの聖遺物」の「複製化」「商品化」現象の文化社会的・政治経済的背景とイスラームの枠組みのなかでの位置づけを探っていく。

#### 4. 研究成果

本研究では、イスラームの聖遺物信仰に関連してこれまでに収集・蓄積してきた資料・情報を整理・分析するとともに、継続的な文献研究を通じて、論文作成に取り組んだ。

同時に、インド・パキスタン・バングラデシュにおいてスンナ派のモスク、聖者信仰・聖遺物信仰、聖遺物グッズの調査、イランにおいてシーア派のイマームザーデおよび聖遺物信仰調査、さらにイタリア、フランス、ドイツにおいてイスラームの鏡像としてのカトリシズムの聖人・聖女および聖遺物信仰調査、イギリスにおける聖遺物信仰否定（プロテスタントイズム）の歴史に関する調査をおこなうことで、南アジアと西アジア、さらにヨーロッパの聖遺物をめぐる宗教事情・信仰状況に関する比較分析のための重要な手がかりとなる資料・情報を収集した。

こうして収集・蓄積できた聖遺物関連の資料・情報は、国別に見るとインド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、タイ、インドネシア、中国、日本、トルコ、イラン、イタリア、フランス、ドイツ、イギリスとなり、宗教別に見てもイスラーム、仏教、キリスト教という「三大世界宗教」をカバーすることとなった。

さらに、インドにおける聖遺物グッズ製作の現場、中国における聖遺物グッズ製造受注販売の現状に関する調査も実施した。この過程で、南アジアでのみ顕著な「イスラーム聖遺物信仰」のきわめて局所的で現代的な側面が明らかになった。

すなわち、南アジアのムスリム多住地域で観察されるイスラームの聖遺物の複製化・商品化現象は、前近代的で呪術的な信仰の残滓ではない。9.11以降のインド・パキスタンで激化した異なる宗教運動間の対立状況と、近隣諸国・欧米諸国などとの政治経済外交関係の変化という文脈において捉え直すべきものである。したがって、「マテリアル・イス

ラーム」の傾向は、イスラームの「原理主義」的傾向に対抗して顕在化するものと考えられるのである。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

Dr. Sachiyo KOMAKI 2013 'The Name of the Gift: Sacred Exchange, Social Practice and Sayyad Category in North India'. 『地域政策研究』第15巻第4号、査読無、高崎経済大学地域政策学会、pp. 39-48.

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/kikanshi/ronbun15-4/08komaki.pdf>

Dr. Sachiyo KOMAKI 2013 'The Cult of Islamic Holy Relics as a Contact Zone: A Case Study of a Muslim Shrine in North India'. 『地域政策研究』第15巻第3号、査読無、高崎経済大学地域政策学会、pp. 27-39.

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/kikanshi/ronbun15-3/07komaki.pdf>

〔学会発表〕(計3件)

Dr. Sachiyo KOMAKI 'The Barelwi Movement and Its Influence on the Cult of Islamic Relics in Contemporary India.' SECOND CNRS-KIAS/SIAS JOINT SEMINAR, SECOND FRENCH-JAPANESE SEMINAR, SAINT CULTS, MAUSOLEUMS AND SUFI LINEAGES. 22th November 2013. CNRS/GSRL, Ecole Pratique des Hautes Etudes - Sorbonne, Paris.

小牧幸代「イスラーム改革主義と聖遺物信仰：バレーリー派の思想とチシュティー系聖者廟の実践」日本南アジア学会第26回全国大会、2013年10月5日、広島大学東広島キャンパス。

小牧幸代「インド・パキスタン・バングラ  
デシュ・スリランカ・イラン・トルコにおけ  
るイスラーム聖遺物信仰調査：オリジナルと  
レプリカとグッズの種類と分布を通して見  
えてくる イスラーム地域 像」海外学術調  
査フォーラム：南・西アジア・北アフリカ分  
科会、2013年6月29日、東京外国語大学ア  
ジア・アフリカ言語文化研究所。

〔図書〕(計5件)

小牧幸代 2014「聖なる複製・商品の信仰  
空間：イスラームの聖遺物とフェティシズ  
ム」田中雅一編『フェティシズム研究 2 越  
境するモノ』京都大学学術出版会、  
pp.219-243.

小牧幸代 2012「インドのイスラーム」井  
上順孝編『世界宗教百科事典』丸善出版、  
pp.532-535.

小牧幸代 2012「コンタクト・ゾーンとし  
ての聖遺物信仰：南アジア・ムスリム社会の  
事例から」田中雅一・小池郁子編『コンタク  
ト・ゾーンの人文学 第 巻 宗教実践』晃  
洋書房、pp.155-175.

小牧幸代 2012「ムスリムとカースト<ウ  
ッタルプラデーシュ州>：預言者の子孫を頂  
点としたヒエラルキー」金基淑編『カースト  
から現代インドを知るための 30 章』明石書  
店、pp.248-258.

小牧幸代 2012「南アジアのイスラーム：  
聖者廟と宗教学校が織りなす信仰の風景」立  
川武蔵・杉本良男・海津正倫編『新世界地理：  
大地と人間の物語・第4巻 アジア 南アジ  
ア』朝倉書店、pp.359-368.

## 6. 研究組織

### 研究代表者

小牧 幸代 (Dr. Sachiyo KOMAKI)

高崎経済大学・地域政策学部・教授

研究者番号：20303901